

平成30年度 東京都立足立西高等学校 学校経営計画

校長 加藤 泰弘

1 目指す学校

本校の教育目標

生徒一人一人の豊かな人格の形成を目指し、社会の有為な形成者として、人権尊重の精神に基づき、国際社会において平和と文化の進展に寄与することのできる資質を養う。

特に次の目標を掲げてその実現に努める。

身体を鍛える。

思いやりの心を身に付ける。

知性を高める。

創造性を培う。

自主独立の心を養う。

社会に貢献する精神を育てる。

以上を踏まえ、次のような学校を目指す。

「安心していきいきと学べる学校」

「自ら将来を切り拓く力を育成する学校」

「地域から信頼され選ばれる学校」

2 中期的目標と方策

(1) 意欲的、主体的に取り組める授業の確立

ア 学習環境の充実

イ 身に付けた知識を基に、深く考え、考えたことを分かりやすく表現する力を身に付けさせる授業の展開

ウ 本校の生徒の能力向上に資する学カスタンダードの策定

エ 授業及び特別活動を活用して体力の向上を図る。

オ チャイム始業、授業への集中、居眠り防止を意識した授業規律の徹底

カ ICTを活用した授業の実践

キ 授業力向上に資する学校内外の授業見学、研修会等への参加推進

(2) きめ細かで組織的な生活指導態勢の確立

ア 組織的な指導による校内規則の遵守といじめ防止及び生命を尊重する生活指導の徹底

イ 基本的な生活習慣を確立させるための取組み強化

ウ 自転車指導を中心とした安全指導の徹底

エ 特別な支援を要する生徒に対する支援態勢の構築

(3) 四年制大学への進学率向上

ア 真に希望する将来に向け、生徒個々の意識啓発と早期からの進路指導態勢を整備

イ 一般入試での大学合格を基本路線にするとともに、生徒の適性に応じたAO入試及び推薦入試の活用

ウ 進路指導部と各学年との連携強化による組織的キャリア教育の充実

エ 特進システムの効果的な運用

オ 新しい大学入試制度に対応できる指導方法の検討

(4) 募集活動の充実と本校志願者の増加

ア 募集活動の見直しと改善

イ 広報活動の充実

ウ ホームページの更新頻度向上と内容の充実

- (5) 特別活動の一層の充実
 - ア 部活動の加入率及び定着率の向上
 - イ 生徒会を中心としたボランティア活動の継続と発展
 - ウ 生徒主体の学校行事運営の推進及び質的向上
- (6) 2020年東京大会に向けたオリンピック・パラリンピック教育の推進
 - ア 選手、関係者等を講師としたオリパラ講演会の実施
 - イ 全教科でオリパラの意義、歴史、競技等に関連した授業の実施
- (7) 「学校における働き方改革推進プラン」に基づくライフワーク・バランスの推進
 - ア 個々の教員の在校時間の把握と自己管理意識の啓発
 - イ 長時間労働に至る業務内容の分析及び改善
 - ウ 部活動の負担軽減策の検討及び実施

3 今年度の取組目標と方策

「ゆめナビプロジェクト」(教育庁指導部事業：H29-H31 指定) 及び「東部学校経営支援センター特別指定校」(H30-H31 指定) の事業を最大限に活用し、以下の目標達成に向けて取り組む。

【学習指導】

- (1) 意欲的、主体的に取り組める授業の確立
 - ア 必要な知識の伝授と理解を前提にアクティブラーニングの手法を取り入れ、生徒が主体的に考え、表現する授業を展開する。
 - イ チャイム始業、居眠り防止の徹底を図る。
 - ウ 授業、体育祭、マラソン大会等を活用し、基礎体力の向上を図る。
 - エ ICT機器や視聴覚教材を効果的に活用し学習意欲を喚起すると共に理解を支援する。
 - オ 授業ミニマムを遵守し、質の高い授業準備を定着させて学習環境をさらに向上させ、個に応じた指導推進と基礎学力定着
 - カ 習熟度別の目標を明確化し、生徒個々に応じて多面的に学力アップを支援する。
 - キ 本校独自の特進システムを活用し、生徒の希望進路実現を支援する。
 - ク 学力スタンダードを活用した目標を設定し、授業内容の共通化を図る。
 - ケ 各教科の授業においてオリンピック・パラリンピックに関連した内容を取り入れる。
 - コ 読書指導に力を入れ、読書による知識と教養の向上を図る。
- (2) 学習内容の定着、学習意欲の向上、学習習慣の定着
 - ア 授業方法の改善等により、学習内容の定着を図る。
 - イ 小テスト、週末課題等の工夫により家庭学習を定着させる。
 - ウ 課題発見型の学習体系について検討し、実践する。

【生徒指導】

- (1) 組織的な品格のある生徒指導の推進
 - ア 遅刻激減を目指し、授業時間管理の一層の徹底を図る。
 - イ 身だしなみ指導、遅刻撲滅指導を中核に全校体制でマナーアップ指導に取り組む。
 - ウ 生徒のマナーアップ・ウィルアップのための取組みを分掌・学年および個々の教員、生徒個々が実践する。
- (2) 安全指導の継続、繰り返し実施による徹底
 - ア 情報リテラシーの向上のための指導を外部の教育力活用も含めて繰り返し徹底する。
 - イ 自転車利用に係る交通法規遵守の指導を繰り返し徹底する。
 - ウ 登下校時および校内安全確保のための多面的な指導を実施し徹底する。
- (3) 生徒支援体制の組織化
 - ア SC (スクールカウンセラー) を中核に生徒支援体制を組織し、生徒の多様な課題に適切に対応する。
 - イ SCや外部の教育力を活用し教員の生徒支援のスキルアップを進める。

【キャリア教育】

(1) キャリア教育の組織化・計画化

- ア 総合的なキャリア教育の組織的な実施体制確立に取り組む。
- イ 「人間と社会」、総合的な学習の時間やHRの活用に組織的に取り組む。
- ウ インターンシップは1学年全員を対象として実施する。
- エ 模擬試験、検定試験の受験について計画的に指導していく。
- オ 個人カルテによる目標管理システムを導入し生徒の主体的な高校生活を支援する。

(2) 進路指導の質的向上

- ア きめ細かく生徒・保護者への面談等を実施し、個々の生徒への理解と支援に努める。
- イ 生徒個々の意識啓発と進路準備早期化への方策実施
- ウ 獨協大学との高大連携や公的機関との連携等外部の教育力の活用を推進する。
- エ 大学進学希望者には大学入試センター試験や一般受験での進学を目標とさせる。
- オ 自分の希望学科と一致する場合はAO及び公募推薦等も推奨し、支援する。
- カ 安易に専門学校を選択させないという前提で指導を進めていく。
- キ 就職希望者には、希望に沿い継続安定性が見込まれる就職内定を目指させる。
- ク 早期からの進路準備のための多面的な講習、指導を実施する。

【特別活動】

(1) 部活動のさらなる魅力化と多様化

- ア 部活動の加入率及び定着率の向上を目指した取組みを実施する。
- イ 運動系部活動では望ましい生徒モデルの育成を主眼とする。
- ウ 文化系部活動では地域に発信し貢献できる生徒の育成を目指す。
- エ 部活動・生徒会による地域交流・地域貢献活動を質・量ともにさらに充実させる。

(2) 学校行事

- ア 体育祭、文化祭を中心に生徒主体の行事企画運営を推進する。
- イ 生徒の安全を第一とした行事運営を原則として検証と改善を図る。
- ウ オリンピック・パラリンピック教育の一環として講演会等を実施する。

【人材育成】

(1) OJT推進

- ア 個々の目標を明確化し、意図的・計画的にOJTを実施する。
- イ 教員間の相互授業参観を積極的に奨励し、自己研鑽に努める。

(2) 研修の奨励

- ア 校内研修の機会を増やし、外部機関による研修への参加等の自己啓発活動も奨励する。

【募集対策活動】

(1) 利用者本位の視点での募集対策活動の改善

- ア ホームページを活用した積極的な情報発信の推進と更新頻度のさらなる向上
- イ 学校見学会、説明会の一層の充実
- ウ 組織的戦略的にマーケティングリサーチを継続し活用する。

【学校経営・組織体制】

(1) 校内情報共有の推進

- ア T A I M S等を活用した情報発信、情報共有の推進を図る。
- イ 組織連携の強化
- ウ 分掌、学年、教科、経営企画室の相互連携を推進し組織体制の強化を進める。

(2) 危機管理の徹底

- ア 個人情報管理、サービス、生徒事故等の事故未然防止に総力を挙げて取り組む。
- イ 外部者の訪問管理を徹底し、安全な学習環境を確保する。

(3) 経営企画室の一層の経営参画

- ア 学校経営計画達成に向け、課題指摘及び改善策の提言に努める。
- イ 費用対効果の観点を持って、予算の有効活用と適切な時期の執行を徹底する。

- ウ 経営計画及び予算編成指針に基づいた予算計画を策定する。
- エ 安全で快適な学校環境を維持するための施設点検、施設管理を徹底する。
- オ 分掌、学年、教科との連携強化に努め、適切な学校運営をサポートする。

(4) ライフワーク・バランスの推進

- ア 業務時間の縮減等、ライフワーク・バランス推進のためのアイデアを募るとともに、可能なものについて実現を図る。
- イ 時間外勤務の多い教員の業務内容の分析及び改善を図る。

(5) 入学者選抜業務の適正な実施

- ア 早期から綿密な準備を進め、教職員の総力を結集し円滑かつ正確に進行する。

<重点項目の数値目標>

- 1 入学者選抜一次応募倍率 1.3倍 (1.28倍)
- 2 私立大学(日東駒専)現役合格者数 10名(7名)
- 3 進路決定率 90%(83.8%)
- 4 成績不振による転退学者 0名(新規目標・昨年度2名)
- 5 生徒事故件数 0件(2件)
- 6 部活動加入率 70%(58.8%)
- 7 ホームページ更新回数 150回(150回)
- 8 年間遅刻延べ回数 8000回(8581回)
- 9 授業満足度肯定回答 80%(74%)
- 10 進路指導満足度肯定回答 80%(73%)
- 11 特別指導件数 10件(13件)
- 12 自転車事故 0件(0件)
- 13 四年制大学進学率 35%(31.4%)
- 14 学校説明会等参加者数 1200組(昨年度は2241名だったが、これは家族を含めての数字である。親子、子のみ、親のみをそれぞれ1組と数えると1169組となる。今年度より総人数ではなく、組数で集計する。)
- 15 ボランティア活動への積極的な参加 14回(19回)
- 16 講習参加生徒延べ数 800名(790名)